

④有害鳥獣の捕獲駆除強化策（答弁者：経済環境部長）

全国レベルでの農作物の被害総額は200億円前後で推移しており、数字に現れない被害としては、営農意欲の低下や耕作放棄地の増加などが深刻な状況となっている。このような事態に緊急に対処するため、被害をおよぼす野生獣の個体数の削減に向けて目標を定め、捕獲従事者の育成・確保や被害防止のための取り組みもあわせて推進する必要がある。

答弁に対する私の思い

鳥獣捕獲駆除については三重県に対しても厳しく要望をして県とともに推進してもらいたい。



民家に出没するサル

4. 「こどもを3人育てられるまち」

公民連携での「地域子育て支援センター」開設（答弁者：保健福祉部長）

平成27年度の地域子育て支援拠点事業の利用者数は、7箇所でのべ81,975人だった。今回、桑陽保育所内の地域子育て支援拠点事業を移設し、公民連携手法を生かし、イオンモール桑名に開設したいと考えている。運営および施設整備については、イオンモール桑名と協議、検討を行なっていく。利用料金については、子育て支援事業を充実させ身近な遊び場所や相談場所として、利用していくので現行のまま無料。



イオンモール桑名2番街1階付近

5. 「世界に向けて開かれたまち」

MICE誘致（答弁者：経済環境部長）

初の国際会議の誘致に成功し、大変喜んでいるところです。長島リゾートコンベンションホールの施設で、平成30年4月17日から4月21日までの5日間、開催される予定。団体、参加する国については、「シリコン基板を加工して電子部品化する技術に関する国際学会」ということで、この学会には国内および海外の大学や大手電気メーカーの方など、海外の方100人を含む総勢約350人が参加する。参加国については、アメリカ、イギリス、ドイツといった欧米各国に加えて、中国、韓国、シンガポール、マレーシアといったアジアの国々も入っている。今後も、三重県とも連携し誘致活動を進めていく。

6. 「納税者の視点で次の世代に責任ある財政に」

①各種使用料、手数料（答弁者：総務部長）

・提案の時期

昨年6月末から、各施設・サービスのコストや利用状況などについて調査を行ない、ヒアリングを実施し、負担割合の設定など改定案のとりまとめを進め、この3月議会での上程となった。

・各種団体や市民への周知

条例改正の内容については、議会での手続きを経た後に各種団体や市民へ周知を行なうべきと考えている。ほとんどの改正について、半年間の周知期間を設け、施行日を10月1日とし、この間「広報くわな」ほか、さまざまな方法を用いて周知を図る。

答弁に対する私の思い

教育福祉委員会でも福祉関連施設の条例が上程されましたが否決されました。答弁を聞いていても各部門での協議が行なわれていませんでした。改定日10月というのも納得がいきませんし、値上げ幅でも原則上限1.5倍となっているにも関わらずいきなり上限越えもあり再度改定日も含め見直してほしい。

②財政調整基金繰入13億円未達、繰越金の計上額0円未達（答弁者：副市長）

見直しが必要な義務的経費である扶助費・公債費の増加を補うほどの、経常経費の削減が進まなかったこと、また、年末12月下旬に国から示される地方財政計画にもとづき見込んでいる地方交付税のほか、各種税関連の交付金の減少額が大きかったことが要因。目標額が達成できなかった想定外の予算は、経常経費の削減が進まなかったこと、やはり歳入の減を大きく見込まざるを得なかったことだと考える。とくに、地方交付税と臨時財政対策債を合わせた額を28年度比で7億5,000万円減とし、このマイナス分を市税収入や消費税交付金の増額では穴埋めができなかったところが一番大きな要因。

以上

愛敬重之



愛敬重之公式HP：<http://www.aikyo-kuwana.net/>

後援会だより

播磨2号緑地公園「ホタルの里」でのさまざまな行事に参加

2017年4月24日
第35期_後援47号
発行責任者：愛敬重之後援会
会長 伊藤 久志

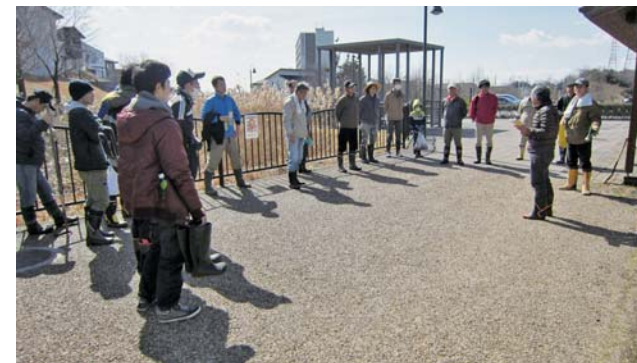
皆さんこんにちは。後援会の皆さんには日頃からご支援をいただき感謝申し上げます。

平成29年第1回市議会定例会では公共施設の使用料を値上げする条例改定30議案を否決しました。市民への周知や、改定時期、値上げ率の根拠など問題があったと思います。2案について、議員発議で修正案を上程しました。修正案は『幼稚園の利用者負担の値上げを半年遅らせる』『新設の体育施設の料金設定は認めるが既存の施設はすべて据え置く』で可決しました。議員提出では、市議の政務活動費を月額20%カットする条例改正案も可決し閉会しました。今回の後援会だよりは、最初のページで最近の活動報告をさせていただき、3月定例会も代表質疑を実施しましたので次ページ以降をご覧ください。

播磨2号緑地「ホタルの里」里山整備活動、放流会準備に参加しました。

昨年、復活することができました先端技術研究所隣「ホタルの里」今年も2月26日里山再生活動と3月12日幼虫放流会の様子を報告します。

- ・2月26日の里山整備ではNTNから10名のボランティア参加がありました！
- ・3月12日の幼虫放流会では昨年よりも多い328名の参加でした。
- ・幼虫も7,448匹（昨年6,063匹）の放流でした。6月の飛翔会が楽しみです。
- ・2月26日里山整備の様相
- ・3月12日「ホタルの里」幼虫放流会の様相



里山整備ボランティア



ホタルの里幼虫放流会

おひさまの森ようちえん卒園式に来賓参加した。

おひさまの森のようちえんの卒園式に来賓参加して下さいとスタッフの方から連絡があり、なぜなのか？と思ってお話をうかがうと、ホテルの里にポンプを寄附設置したことにより、播磨中央公園の小川も流れ子ども達の夏の遊び場所として復活したことから来賓参加となったようです。(紹介しやすいようにNTNユニホームで参加)



おひさまの森のようちえん卒園式



復活した小川で遊ぶ子供たち

予算が決まる平成29年第1回市議会定例会代表質疑に挑む

代表質疑は以下のようにさまざまな視点から質疑し、担当各所から答弁をいただきました。

1. 「選ばれるまちくわな」の達成

①実現に向けた取り組みとは具体的にどうしていくのか (答弁者：市長)

市民の皆さんの満足度を向上させていくために、近々の課題であり、本市の将来のために着実に事業を推進していかなければならない取り組みとして「桑名市総合医療センターの新病院整備事業」と「桑名駅周辺の整備事業」に特に重点的に予算を配分し、推進していく。「桑名市総合医療センターの新病院整備事業」については、新棟新築工事が、平成29年度で最終年度を迎える。平成30年4月の開院を目指す。「桑名駅周辺の整備事業」は桑名駅を中心に都市基盤や交通結節点の機能強化を図りながら、市内外から集まる賑わいと活力あふれる拠点づくりを進めるもので、桑名駅東西自由通路の整備は、5月から着手する。

②市長が考える「スピード感」とは (答弁者：市長)

11の重点プロジェクトのほとんどは、一つの部署だけで成し得るものではなく、いくつかの部局において横断的に横串を刺して取り組んでいかなければなりません。そのために、来年度から市長直轄組織を設けるなど、即時対応できる組織体制づくりにも取り組んでいく。あわせて、関係諸団体との協議についても、十分に行なう必要があり、市民や関係諸団体などに対して、取り組むべき事業の内容について丁寧に説明を行ない、市民、関係団体と行政が一体感を保ちながら進めていくことは重要である。さらに、事業実施後のフォローも必要であると考えている。



写真は現在の桑名駅ロータリー付近

答弁に対する私の思い

答弁のなかでは、即時対応できる組織体制づくりにも取り組んでいくとありました。市長の事業計画達成には、副市長以下管理職が部下の業務に対するモチベーションを低下させることは即時対応を困難にします。部下が元気で働きやすい環境づくりが必要。

③ビジネスサポートセンターの設置場所と事業内容は (答弁者：経済環境部長)

三重県産業支援センター・桑名商工会議所と連携して中小企業の課題に寄り添い支援する常設の専門相談所となる「桑名市ビジネスサポートセンター」を新設するもの。開設場所については、桑名商工会議所の一角に設置を考慮しており、そこに三重県産業支援センターから中小企業診断士をはじめとするコーディネーター・アドバイザーなど専門家を配置し、中小企業・小規模事業者のさまざまな相談に対応していく予定。

答弁に対する私の思い

無料の経営相談所として、創業・売上向上・経営改善などに加え、とくに近年、課題となっている事業継承やIT相談などにも対応し、さらにデザインなどの新商品開発の支援など「選ばれるまちくわな」の達成に向け、地域経済の活性化にも取り組んでほしい。

2. 中央集権型から全員参加型の市政に

①「(仮称)コミュニティセンター」機能転換で変わるもの (答弁者：市民安全部長)

「(仮称)コミュニティセンター」の機能転換については、平成30年4月を目指し「(仮称)まちづくり協議会」、自治会や老人会、NPO団体などの各種団体が気軽に集うことのできる、地域の「人と情報」が集まる場へと変えていこうとするもの。具体的には、地域住民の皆さんが使いやすい施設運営を可能とし、利便性を高め、幅広く利用できるよう、条例などに定めるこれまで施設機能の位置づけを見直し、新条例「(仮称)コミュニティセンター設置条例」の制定を目指す。

②「(仮称)堂ヶ峰公園」整備 (答弁者：都市整備部長)

市街地における緑・自然を活かして公園整備をすすめていく予定。当公園予定地は桑名市西部、星見ヶ丘の法務局北側に位置し、面積は約1.96ヘクタールあり松ノ木地区とも隣接している。整備内容にとどまらず、公民連携の一環とした公園運営や管理の手法など、良いアイデアを頂戴し、また、安全性や防犯上での配慮も考えながら、地域の皆さんと共に検討していきたいと考える。



公園整備予定地の現在

答弁に対する私の思い

ぜひ、整備の時から市民のアイデアなどを入れていただき、利用しやすく親しみやすい公園整備を願う。

3. 「命を守ることが最優先」

①「桑名市総合医療センター」新病院の新棟新築工事の進捗状況はどうなっているか

(答弁者：保健福祉部長)

現在、工事は予定通り順調に進んでいる。今年の1月末現在での建築工事の進捗率については44.0%、具体的に申し上げますと、新外来棟については、最上階の6階部分までコンクリート打設工事が完了し、現在は、内装および外装工事に取り掛かっている。また新棟病棟については、4階部分までのコンクリート打設が完了し、現在は上層部分の鉄骨工事を行なうとともに1階から外装工事に取り掛かっている。(右写真：新棟病棟建設)



②防災・危機管理課を市長直轄の組織とすること (答弁者：市長公室長)

災害時にはスピード感を持って対応しなければならないことから、体制の強化が図られるものと考えている。さらに、消防本部にある「防災指導課」を防災・危機管理課へ統合する。現在も消防職員、防衛省OBの嘱託職員を配置し、さらなる組織体制の強化・充実につながるものと考えている。

③「福祉の総合相談窓口」 (答弁者：保健福祉部長)

従来からの高齢者だけでなく、障害や子ども若者など、複雑化する福祉分野の相談に縦割りをしてできる限り無くした窓口で対応できるよう、同センターの受託者である桑名市社会福祉協議会にその業務を委託するもの。相談内容によってはその場で解決できるものばかりではなく、相談支援の状況や課題、問題点を話し合う調整会議の設定や、電話、窓口、訪問などの相談対応の方法や、事業の検証方法も必要であることから、社協と協議をしていく。



福祉なんでも相談センター